エスディージーズ

SDGsとは?

貧困や紛争、気候変動など、世界は数多くの課題に直面し、このままでは人々が安心して暮らし続けることができなくなると心配されています。そのような危機感から、世界中のさまざまな国の人々が話し合い、2030年までに達成すべき目標を立てました。

それが「SDGs：Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」です。

SDGsは2015年9月の国連サミットにおいて採択されました。持続可能でよりよい社会の実現を目指し「誰一人取り残さない」をキーワードに17の目標（ゴール）とそれらを達成するための具体的な行動を示した169のターゲットがあります。

SDGSの17の目標（ゴール）

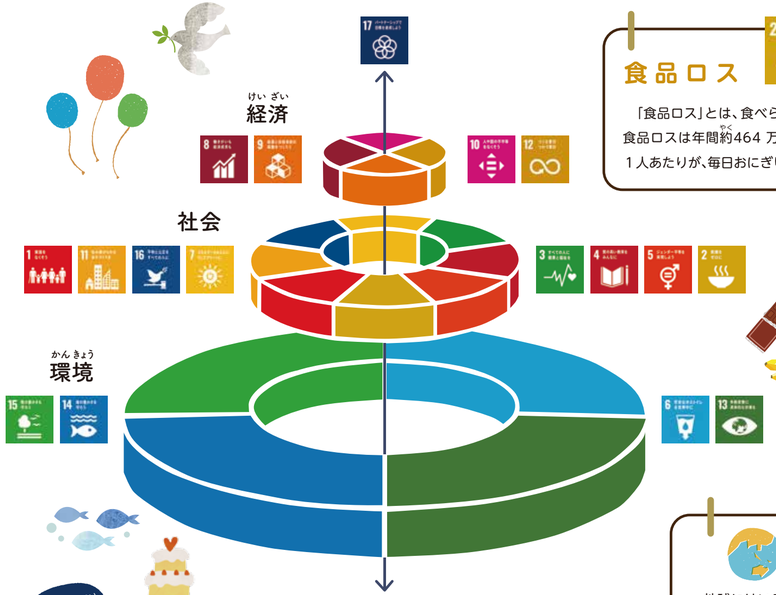
水を育む水源林

「水源林」という言葉を聞いたことがありますか?

森林は、水を蓄える役割をもっています。雨水は、やわらかい森林の土にゆっくりしみこんで、地下水となって川へゆっくり流れ出ます。森林は、降った雨を少しずつ川やダムに届け、洪水も防いでくれます。このような森林を「水源林」といいます。東三河の地域を流れる豊川を支えているのは奥三河（設楽町、新城市など）の水源林です。豊かな水源を守るためには、豊かな森林を守ることが大切です。

プラスチックのごみ問題

プラスチック製のストローやレジ袋、ペットボトルは丈夫で長持ちで便利ですね。でも、プラスチックは土の中で分解されて自然に戻ったり、水に溶けたりしません。人の目では見えないぐらい小さな「マイクロプラスチック」という粒になって、いつまでもなくなりません。その小さなマイクロプラスチックを魚や鳥が食べたり、海の水を汚したりすることが世界的に問題になっています。



図の説明

まるで3段のウェディングケーキのような形をしていることから、「SDGsウェディングケーキモデル」と呼ばれ、スウェーデンの学者によって考えられました。このモデルは、17の目標（ゴール）を経済（働きがい、生産・消費など）、社会（貧困、教育など）、環境（気候変動、海・陸の豊かさなど）の3つに分けたものです。「経済」の発展には「社会」が健全であることが必要で、健全な「社会」は豊かな「環境」があって初めて成り立つことを示しています。そしてどの階層においても「パートナーシップ」が重要であることを示しています。

食品ロス

「食品ロス」とは、食べられるのに捨てられてしまう食品のことです。日本で発生する食品ロスは年間約464万トンといわれています（2023年度推計値）。これは日本人1人あたりが、毎日おにぎり約1個のご飯の量（約110g）を捨てていることと同じです。

フェアトレード（公平・公正な貿易）

日本で販売されるチョコレートやバナナ、コーヒー。これらを生産している国の人々のことを考えたことがありますか？

「フェアトレード」とは、作物や製品を作ってくれる人たちが、正当な給料を受け取ることを目指す取り組みです。

作る人も食べる人もみんなが幸せになれる持続可能な取引のルールを作っていくことが大切です。

気候変動

地球にはいろいろな天気があり、暑い日もあれば、寒い日もありますね。でも、最近は少しずつ地球全体が温かくなってきています。

車や工場から出る二酸化炭素（CO_2）などを含む排気ガスや木をたくさん切ることによる森林の減少は、地球温暖化の原因の一部です。地球が温かくなると、北極・南極などの氷や氷河が溶けて海水面が上昇し陸地が減る、動物や植物が生きにくくなる、大雨や台風などの異常な天気が増えるなどの影響があります。豊橋市は、2021年11月に「ゼロカーボンシティ宣言」を行い、2050年までに地球温暖化の原因となる二酸化炭素などを実質ゼロにすることを目指しています。

SDGs 豊橋市の取り組み

ゴミゼロ 530運動

2025年で50周年！

「自分のゴミは自分で持ち帰りましょう」が合言葉の530運動。

530運動が始まったまちとして、未来の子どもたちに緑豊かできれいな地球を残すため、「ごみを出さない、作らない530のまち」、「ごみを拾う530のまち」、「資源・エネルギーを大切にする530のまち」、「環境学習を行う530のまち」の4つを目標に、多くの人たちが一体となって環境にやさしいまちづくりに取り組んでいます。

地産地消

◆全国トップクラスの農業王国！

季節に応じてさまざまな種類の野菜や果物が生産されています。豊橋産の農産物を地元で利用すること（地産地消）は、地域農業の活性化や、輸送にかかる燃料消費を下げることにつながり、環境にやさしいなどのメリットがあると言われています。

例えば…

〈とよはし産学校給食の日〉

地元農産物を使用した特長ある献立を学校給食で提供

豊橋市SDGs推進パートナー制度

豊橋市とパートナー登録をした企業などがお互いのSDGsの取り組みを共有するなど、SDGsの目標（ゴール）や、地域の課題解決に向けて一緒に活動をしています。

バイオマス利活用センター

みなさんの家庭で発生する生ごみを集め、バイオマス利活用センターで再生可能エネルギーであるバイオガスをつくっています。このバイオガスから電気をつくり、電力会社に売電しています。これにより、生ごみを100%エネルギー化し、温室効果ガス削減やエネルギーの地産地消の実現に取り組んでいます。

学生によるSDGsの取り組み

豊橋市のまちづくりの基本理念『私たちがつくる　未来をつくる』を念頭に、学生の皆さんにまちづくりを自分事として考え、未来の豊橋をみんなで創造することを体感してもらうことを目的に「豊橋市高校生・大学生SDGsアクション」を実施しました。

グループ名「アミーゴス」（桜丘高等学校）

豊橋ムケッカ

外国人が多く暮らすまち豊橋。ブラジル人と日本人がともに住みやすい、多文化共生のまちづくりに取り組んでいます。ブラジル料理のムケッカと豊橋の食材を合わせてできた「豊橋ムケッカ」を作り、食に関する共通の話題を創り出すことで、ブラジル人と日本人のお互いの文化の理解につながっています。

まちづくり創作絵本『ちゃっとおいでん』

子どもたちに自分の住むまちを好きになってほしいという願いを込めて、豊橋市出身の絵本作家あおきひろえさんと共同で、子どもから大人まで楽しむことのできる豊橋の魅力がいっぱいの絵本を制作しました。